

【2021 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/臨床人間学系】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
コミュニケーションスタディーズ		選択必修	1	2.3	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
鈴木 真吾 他	B309	shsuzuki	木曜日 10:40~12:10		
授業の目的・概要	<p><目的> 現代社会におけるコミュニケーションは豊かな親子関係や友人関係、パートナーシップを育てる一方で、虐待や DV といった不健康な依存、ひきこもりなど、深刻な社会問題をも増幅させている。また、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、ステイホームが叫ばれ、オンライン・コミュニケーションの普及が加速的に進んでいる。このような今日のコミュニケーションに関する社会的課題について、画一的ではない、現実的かつ多様な観点で自己と他者・社会との関係性を相対化して実践に挑める医療・福祉・心理専門職になるには、自律的かつ能動的な思考及び判断力が重要となる。本科目では、医療・福祉・心理専門職、また地域へ意欲的に貢献できる社会的人材を養成するため、PBL スタイルの授業により、学生の自律的かつ能動的な思考及び判断力を涵養することを目的とする。</p> <p><概要> PBL (Problem-Based-Learning) スタイルの中でも、問題提示型 PBL の授業を展開する。テーマに沿った特定の問題を教員が提示して、グループでそれらを問題解決することを通して、自律的かつ能動的な思考及び判断力を培うための様々なスキルを体験的に習得させる。この「コミュニケーションスタディーズ」では、精神医学・社会学・心理学等のエッセンスから構成される学際的領域である「コミュニケーション学」に関するテーマを問題の題材に取り上げる。</p>				
学習上の助言	授業全般を通して、PBL スタイル特有の積極的な受講姿勢が必要となります。知識教授型の授業で要求される暗記学習ではなく、自らがグループの仲間と意欲的に協働する活動が欠かせません。受け身的な学び方を排して、この授業から大学生としての学び方を飛躍させる熱意と好奇心を高めましょう。				
教科書	教科書は指定しない。				
参考書	「大学1年生からのプロジェクト学習の始めかた」常磐拓司・西山敏樹 (著) 慶応義塾大学出版会				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	複雑な現実社会の問題を批判的に考えて分析し、解決策を見出すことができる。			HSU (2) (3) (5)	
②	解決に適する情報や資源を探索して、解決策の立案に活用できる。			HSU (2) (3) (5)	
③	チーム・グループの仲間と積極的に協働して解決に挑むことができる。			HSU (4)	
④	多面的かつ効果的な工夫を凝らして、成果を発表することができる。			HSU (4)	
⑤	他者から評価されるという視点を意識して、自分の活動を振り返ることができる。			HSU (6)	
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション~PBL スタイルを知る~ グループで協働するための技法を体験的に学ぶ① 問題提示型 PBL : 練習「健康科学大学を発展させよう」① ~問題の現状理解と分析~	講義・演習	活動評価表 (自己・グループ評価) を作成する。問題の分析に取り組む。		3
2	グループで協働するための技法を体験的に学ぶ② 問題提示型 PBL : 練習「健康科学大学を発展させよう」② ~解決策の立案、発表~	演習・PBL	活動評価表 (自己・グループ評価) を作成する。		2
3	問題提示型 PBL : 本番① ~問題選択と情報収集・整理、問題の現状理解と分析、解決策の立案~ (コミュニケーションのテーマ: 共依存、ひきこもり等)	PBL	活動評価表 (自己・グループ評価) を作成する。問題の分析に取り組む。発表会の準備を行う。		6
4	問題提示型 PBL : 本番①~発表会~	PBL	活動評価表 (自己・グループ評価) を作成する。		2
5	グループ再構成 問題提示型 PBL : 本番②~問題選択と情報収集・整理~ (コミュニケーションのテーマ: 共依存、ひきこもり等)	PBL	活動評価表 (自己・グループ評価) を作成する。問題の分析に取り組む。		3
6	問題提示型 PBL : 本番② ~問題の現状理解と分析、解決策の立案~	PBL	活動評価表 (自己・グループ評価) を作成する。問題の分析に取り組む。発表会の準備を行う。		6

【2021 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/臨床人間学系】

7	問題提示型 PBL：本番②~中間発表会、批判的再検討~	PBL	活動評価表（自己・グループ評価）を作成する。発表会の振り返りを行う。発表会の準備を行う。	4					
8	問題提示型 PBL：本番②~最終発表会~	PBL	活動評価表（自己・グループ評価）を作成する。活動総括レポートを作成する。	4					
試									
達成度評価									
総合評価割合（%）		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計		
		0	20	20	0	60	100		
総合力指標	知識・技術力	0	0	0	0	10	10		
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	10	20		
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	10	10		
	発表・表現伝達する力	0	0	20	0	0	20		
	コミュニケーション力	0	0	0	0	10	10		
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10		
	問題を発見・解決する力	0	10	0	0	10	20		
評価のポイント					フィードバックの方法				
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点							
試験	①								
	②								
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								
レポート	①	✓	PBL 授業の全体を通して、自らが取り組んできた活動の全てを振り返り、PBL 授業を受ける前後において、今後の自分の学び方（姿勢）にどのような変化を得られたか、自己分析と改善方法のアイデアをまとめたレポートを作成する。レポート作成の基本形式は修得している前提として、自己の問題発見とその解決を導く創意工夫を評価する。				コメントを付して返却する。		
	②	✓							
	③								
	④								
	⑤	✓							
	⑥								
成果発表	①	✓	グループで取り組んだ PBL の成果を発表して評価を受ける。テーマ：本番①の発表会 5 点、本番②の中間発表会 5 点、最終発表会 10 点の配分を割り当てる。				評価はコメントを付して、自己（自分）及びグループともに返却する。		
	②	✓							
	③	✓							
	④	✓							
	⑤								
	⑥								
ポートフォリオ	①								
	②								
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								
その他	①	✓	PBL 授業の全ての回で、自己（自分に対する評価と記録）及びグループ（グループメンバーからの他者評価）での活動への取り組みを記録・評価した活動評価表の提出を求める。				評価はコメントを付して、自己（自分）及びグループともに返却する。		
	②	✓							
	③	✓							
	④								
	⑤	✓							
	⑥								

【2021 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/臨床人間学系】

備 考

担当教員：◎鈴木 真吾、瀧口 綾、坂本 宏史

新型コロナウイルス感染症の予防対策のため、今年度は履修制限として最大 50 名の受講人数に限る。選択必修の PBL 授業「スタディーズ」は前後期で計 4 科目が開講されるので、ガイダンス期間の履修指導でのアナウンスに従い、履修登録に十分に留意すること。この「コミュニケーションスタディーズ」は 8 回設計の授業であり、PBL について授業外での活発な学習活動を含めてスピード感を持って行う。相当に自律的な学習姿勢が必要となるので覚悟して受講すること。

また、本科目はグループ活動への積極的参加が大前提であり、原則として全ての回に出席すること。なお、本学の規程に基づき、演習系授業に該当するため、出席回数 5 分の 4 以上が単位取得には必要となる。

なお、Teams で諸事の連絡を行うので確認を怠らないこと。また、全 8 回が登校授業（対面授業）であるため、大学が示した感染症予防対策の指針を遵守すること。感染症予防対策の観点から、教員の指示に従わない行動をとった場合には受講を認めないことがある。その場合、授業は欠席として取り扱う。なお、今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われることもある。